

肝試し大会に最強の武器!?

てか、死神くんって本名なの？

一部のマニアに支えられ、長きにわたりにアレしてきたクールリブラー。「図書館のマナーについておもしろおかしく伝える」をコンセプトにスタートしたものの、わりと早い段階でネタ切れし、今や個人の思い出を綴るスペースとしてどっぷり定着。ここに来てついにエンディングかと思いきや、ラストを迎える準備に入る前のひとネタをぶっこんでみる。今回わりと下品。

【微妙に長文のためここからメイン文】

さあいよいよ体験ロτζジ当日の金曜日。午前中の授業をさりとこなし、現地へ向けてバスで出発。30分程で到着し、体育館でウォームアップのバレーボール。夕食のカレーを食べると、いよいよメインイベント第一弾「肝試し大会」へ。このあたりはサクサクいくよ！

さて、今回の体験ロτζジでは、クラス内でいわゆる実行委員的な人を集め、肝試し大会やカラオケ大会などの計画を立てていた。生来学校嫌いのカジは、そういう類のモノには一切参画してこなかったのだが、千絵ちゃんがいるなら話は別。内容を問わず身を投じていた。この体験ロτζジでも、

クラスの中心人物である千絵ちゃんはもちろん実行委員のメンバーであり、千絵ちゃんもメンバーとなっていたのだ。そして肝試し大会は、カジを含む男子実行委員により企画・制作・演出・運営がなされていた。そのメンバーのひとり、死神くん(半実名)はなぜか「当日最強の武器を持つてる」と豪語していた。肝試しになぜ武器が必要なのか、誰もその疑問にぶち当たらなかったことが既に驚きなのだが、果たして当日、彼はその最強の武器を持参した。自ら「化学兵器」と呼ぶそれは、何重ものビニール袋に入れられており、中身が何だかわからなかった。死神氏はたいそう誇らしげにその中身を言い放つ。

「乾燥した犬のフンだよ」

なんとまあ。化学兵器というよりむしろ原始兵器。彼曰く「霊が出たらこれを投げつけてやる!」とのこと。某おすぎ系の人が言う「ぶんつけてやる!」に近い響きだ。そもそもこの肝試しのために犬のフンを地道に集めてきた彼には脱帽、いや脱糞である。しかししかし、体験ロτζジ当日は小雨。少しばかりの雨は、肝試しに怖さを添えてくれたが、死神くんの化学兵器には大敵。水分を含んだそれは元のアレに逆戻り。投げるとかそんな次元ではなくなり、そっと土に返した心優しい死神くんであった。

華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

講座

カジのうら若き青春黙示録

文 / カジ

作曲欄

